

白石定之  
Sadayuki Shiraiishi

# 投資信託で うまくいく人、 いけない人

「定年世代」が上質な  
セカンドライフをつくる方法

※ 本書の内容はすべて執筆時の信頼できる情報に基づいていますが、その正確性等について保証するものではありません。本書は資産運用におけるご参考として情報を提供しているものであり、本書に基づいて被ったとされるいかなる損害についても責任を負いかねますので、最終的な投資の判断はご自身の責任において行っていただけますようお願いいたします。

## はじめに

私は独立系フィナンシャルアドバイザー（IFA）として、多くの50〜70代の方々と日々接しています。この世代の方々は「資産を増やしたいけど、減らしたくない」と口々におっしゃいます。特に定年後・雇用延長の終了後は、基本的にはこれまでであった労働による収入が望めないわけですから、そうおっしゃる気持ちは痛いほどわかります。

そうした切実な想いから、「増やしたい」という希望と「減ったらどうしよう」という不安の間を揺れ続け、結局、「何もせず預金に置いておく」という選択に落ち着いている方も多いのではないのでしょうか。

退職前後のころになると、セカンドライフのライフプランセミナーの案内が届くようになります。ただし、そうしたセミナーで得られる情報といえは、資産を取り崩すことを前提とした平均的なプランが中心。皆さんのセカンドライフがそのような平均的なものにならされてしまうことに、「本当にそれで幸せなのだろうか」と私は思っています。

これまでの職業人生が一人ひとり違っていたように、リタイア後の人生も、一人ひとり違っていていいと思います。ところが、経済的な不安がネックとなって、自由に生きることを諦めざるを得ず、結局は不本意にお金を残して人生を終えてしまうというパターンが多いようです。何ともいえず、もったいない気がします。

当たり前かもしれませんが、経済的な不安のために、いつも我慢して暮らしていかねればいけないよりは、ある程度、自分が使いたいと思うことにお金を使えて、自分らしく生きられるほうが幸せだと思います。50〜70代の方が将来に対して過度に不安になることなく、一生涯、幸せな生活を送るお手伝いをするのが私の使命だと考えています。

私は、1987年、中学3年のときに父の勧めで株式投資を始め、その後、2000年から証券マンとして、2012年からはIFAとして、多くのお客さまの資産運用のお手伝いをしてきました。自分自身の30年に及ぶ個人投資家としての経験と、証券マン・IFAとして十数年にわたって投資家のお客さまと接してきた経験から、私は、資産運用の成否は、ある重要なファクターによって決まることに気がつきました。

そのファクターとは、「心の状態」です。実際の投資の現場では、その人がどのような

運用をしているかよりも、どんな心理状態になっているかのほうが、実は運用成績を大きく左右するのです。そして、資産運用でうまくいかない方のほとんどは、心理状態が「資産を減らす」方向へと動いてしまっています。自分ではギャンブルをしているつもりはないうのに、結果的には「丁半博打」のような投資になっているのです。このメカニズムについては、本文中で詳しく解説します。

皆さんには、過去にこういう経験はないでしょうか？

相場が上昇していたときには確かに資産は増えたけれども、その後、相場が下落する局面では、増えた以上に資産を減らしてしまった。「今度こそは」と思っても、また同じことを繰り返してしまう……。

増えるときには増えるけれども、最終的には減ってしまつて「運用なんてしなればよかった」と思つてしまうのです。運用歴の長い方であれば、1980年代後半の平成バブルとその崩壊、2000年のITバブルとその崩壊、そしてリーマンショック前後も、結局は同じことを繰り返していると思われた方もいるのではないのでしょうか？

なぜ、思ったとおりにいかないのでしょうか？

誰もが資産を増やそう、少なくとも減らしたくはないと思って資産運用をしているはず。ところが「資産を増やそう」という気持ちが強ければ強いほど、資産を減らしてしまう心理的メカニズムが働きます。具体的には「高いところで買い、安いところで売る」というパターンにはまってしまうのです。

一方で、リーマンショックがあるうかががあるうかが、中長期的に資産を増やしている人たちがいます。50〜70代の方々が切実に願う「増やしたいけど減らしたくない」を実践している方々がいます。

こうした資産運用成功者の方々の大半は、特別に運がいいわけでも、何か第六感のようなものが働くというわけでもありません。根本的には同じことをしていらつしやると私は解釈しています。それらの方々の運用は決してギャンブル的ではなく、どちらかというところと保守的で、成功するべくして成功しています。そして、読者の皆さんも同じやり方をすれば、それらの方々の仲間入りすることも十分に可能だと私は考えています。

本書では、資産運用の失敗の大きな要因でありながら、多くの運用指南書でほとんど触れられていない「投資家心理」に着目します。資産を減らす心理メカニズムとはどのようなものなのか、その心理がどのようなことを人にさせるのか、うまくいかない人はどのような構図にはまっているのかをお伝えしていきます。

その上で、そうした心理の罠から脱した、「増やしたいけど減らしたくない」世代のための、ワンランク上の資産運用について解説します。

本書が、中長期的な視点で、皆さんの右肩上がりの資産運用を実現していくきっかけになれば幸いです。

著者

## 第1章

# 「資産運用」を考えたときの 定年世代の不安と悩み

長くなった「セカンドライフ」 16

定年世代の資産運用はこう考える 25

なぜ資産運用はうまくいかないの？ 31

**コラム** 毎月分配型の投資信託は良い？ 悪い？ 36





## 第2章

# うまくいかない 本当の原因は何か？

運用するときの主な3つのスタンス 38

「再現」積極投資型の人が陥る心理 45

うまくいかない本質的な原因 54

コラム 投資家の3分の2が

「分配金」の意味を知らない!?

64

### 第3章

## 一喜一憂しないために 考えられた国際分散投資

なぜ多くの金融機関が

「国際分散投資」を勧めるのか？

68

国際分散投資をするなら

押さえておくべきこと

81

証券マンと顧客の双方がもたらす

「資産を減らす」構造

86

コラム

あなたのリスク許容度は、

一喜一憂に支配されている!?

97



## 第4章

# 成功している人がいる ワンランク上の世界

成功している人はどこにいるのか？

100

バリュー投資が「ワンランク上」の世界である理由

107

なぜ、バリュー投資をする人は少ないのか？

114

コラム ▼ 投資信託のコストは高い？

121

## 第5章

### 定年世代が上質な

### セカンドライフを送るために

バリュウー投資への現実的なアプローチ 124

バリュウー投資の正しい「頼り方」 133

投資信託を選ぶ上での5つのポイント 143

65歳まで／65歳からのバリュウー投資の方法 158

コラム

インデックスに負けている

アクティブ型投信は本当に多いの？

169



## 第6章

### 最も重要なことは

### 一喜一憂を克服していくこと

バリュウー投資を選べばすべて解決するのか？

174

結局、「心理」の面をどう克服していくか

187

一喜一憂を克服するための「チーム」をつくる

195

おわりに

209

